

「岩手の復興と再生に」 オール岩大パワーを

vol.21

<http://www.iwate-u.ac.jp/koho/fukkouletter.shtml> 岩手大学ホームページからもご覧いただけます。

釜石サテライトで第1回海洋・水産研究チャレンジセミナーを開催しました

8月12日、SANRIKU（三陸）水産研究教育拠点形成事業（岩手大学・東京海洋大学・北里大学）といわて海洋研究コンソーシアム（東京大学国際沿岸海洋研究センター・岩手県水産技術センター他）は震災復興のため、海洋や水産研究に携わる各大学の研究内容を高校生や市民の方々に伝えることを目的として「第1回海洋・水産研究チャレンジセミナー」を開催しました。

セミナーでは、東京海洋大学の小川廣男副学長から歓迎の挨拶が述べられたのに続き、岩手大学、東京海洋大学、北里大学、東京大学の教員から水産学と海洋学に関する講演が行われ、参加者はそれぞれの発表内容に聞き入っていました。



サケ類の遺伝子研究について講演する阿部周一岩手大学特任教授

阿部周一岩手大学三陸水産研究センター特任教授の「サケ類の遺伝子研究について」と題した講演では、近年漁獲量が減少している本県のサケについて遺伝的特性を調査し、サケの資源回復を目指すという三陸にとって非常に身近なテーマが扱われ、講演を聞いた高校生からは、「生物が好きなので、遺伝子研究の話は非常に興味深かった」といった感想がありました。

また、東京海洋大学の鈴木徹教授からは「美しさを保持する冷凍と解凍」と題した講演があり、氷点を超えても液体や気体が凝固せずそのままの状態を維持する「過冷却」という現象についても解説がありました。参加者には過冷却した水のペットボトルが配られ、これに衝撃を加えることで、一瞬にして過冷却水を氷に変化させる実験も行いました。

本セミナーには、県内外の高校生や一般市民約100名が参加し、海洋・水産研究に対する大きな期待が感じられました。岩手大学では今後も各機関と連携しながら、水産研究の成果を一般市民の方々に紹介するセミナーを定期的で開催する予定です。



過冷却の実験を行う高校生

「東日本大震災の被災地におけるシンポジウム2013」が開催されました

8月7日、岩手大学を会場に「東日本大震災の被災地におけるシンポジウム2013 東日本大震災を超えて：大学のなすべきこと、できること」（主催：日本私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会）が開催されました。本シンポジウムは、東日本大震災の被災地の一日も早い復旧を願うとともに、全国各地に展開する私立大学・私立短期大学並びに大学関係者が情報を共有し、大学支援の仕組みを一層強固なものとするを目的としており、今年度はいわて高等教育コンソーシアム（構成校：岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校）との共催で開催されました。

清家篤日本私立大学団体連合会長（慶應義塾長）の主催者挨拶、小松親次郎文部科学省高等教育局私学部長、達増拓也岩手県知事、谷藤裕明盛岡市長の来賓挨拶に続き、藤井克己岩手大学長による「震災地岩手からの発信～いわて高等教育コンソーシアムの取組み～」と題した基調講演が行われ、藤井学長は岩手大学といわて高等教育コンソーシアムの復興へ向けた取組を紹介し、最後に「岩手大学のスローガン『岩手の“大地”と“ひと”と共に』は震災を契機に益々重要となった。本学は今後も地域の拠点として産学官民と連携し、復興への取組に邁進する」と決意を述べました。



基調講演を行う藤井克己岩手大学長

その後のシンポジウムでは、「東北被災地におけるこの2年の取組みと地域貢

献ー被災学生支援、被災大学支援を風化させないために」をテーマに、中村慶久岩手県立大学長、眞瀬智彦岩手医科大学教授、藤原隆男富士大学長、徳田元盛岡大学長、藤田成隆八戸工業大学長から、各大学における復興に向けた取組と地域貢献等について報告が行われた後、コーディネーターの佐藤弘毅日本私立短期大学協会長（目白大学長）のもとで、国公私立大学の設置形態を超えた被災地の復旧・復興に向けての取組と地域社会への貢献、地域の活性化について意見交換が行われました。

本シンポジウムには、私立大学・短期大学をはじめ、教育関係者、一般の方々を含め約200名が参加しました。東日本大震災からの復興促進に向けて国立、公立、私立を問わず、それぞれの大学の特色を活かした多様な取組を実施することが強く求められていることを再確認する機会となりました。



シンポジウムの様子

岩手大学三陸復興プロジェクト

岩手大学では岩手大学三陸復興推進機構を設置し、地域の行政や住民、他大学、企業等と連携を図りながら、教職員・学生が一体となって東日本大震災からの復興に取り組んでいます。今回は学生ボランティアをサポートし、被災地に関わりやすい環境づくり、安全なボランティア活動を行う体制づくりに取り組み生活支援部門ボランティア班の活動をご紹介します。

被災地の現状と学生ボランティアのこれから

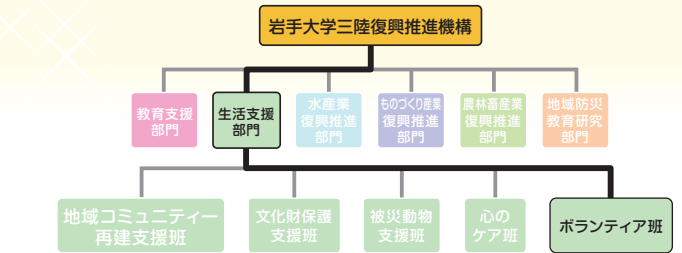
岩手大学三陸復興推進機構 生活支援部門 ボランティア班
 楡井 将真(三陸復興推進機構 プロジェクトマネージャー)

ボランティア班では、大学公認学生サークル「ANEW(アニュー)」と「もり☆岩手」のサポート、学生のボランティア意識の向上や、被災地に関わるきっかけづくりとして、説明会の定期開催やボランティアに関する講習会等を実施しています。このようなことを通じて、学生が被災地に関わりやすい環境づくり、そして心身共に安全な活動を行う体制づくりを目指し活動を行っています。

震災から2年と6ヶ月が経った今、被災地の状況は日々刻々と変化し、それと同時に、ボランティアのフェーズも変化しています。震災当初は、緊急的に必要とされているニーズ対応、例えば食料などの物資配給やガレキ処理等の活動がありました。しかし、時間が経つにつれ、それらのニーズは減少し、ニーズ自体も、可視化されたも



陸前高田市での足湯ボランティア活動の様子



のではなく、被災された住民の心の中にある複雑化されたものへと変化しています。そのニーズの把握をすることが、まずは、とても重要なことだと感じています。現在釜石市や陸前高田市の仮設住宅にて、住民と寄り添ったかたちの支援活動の展開を行っています。釜石市では、料理や手芸品づくりを通じた支援活動を行い、住民の方と交流する機会を創り出し、そこでの対話から次に繋がるニーズを模索する活動。そして陸前高田市では、ボランティア手法の1つである足湯ボランティアを通してそこから生み出される住民の方の生の声「つぶやき」を得ることにより、学生ボランティアとして何が出来るかを考えたり、今本当に必要とされているニーズを模索する活動。これらの活動を通じ、住民と寄り添うことで被災者とボランティアとしての関係ではなく、一個人と一個人としての関係をつくることで生まれる新たな関係性の中、今後の復興に向けたボランティア活動を推進していくと共に、被災地に向き合える、寄り添える学生ボランティアの育成にも力を入れていきたいと考えています。



仮設住宅での手芸品づくりの様子

釜石サテライトだより

今回は、釜石で行われている三陸復興推進機構ものづくり産業復興推進部門の取組について紹介します。

当部門では、被災された沿岸部のものづくり企業の支援拠点として、釜石サテライト近隣にある(財)釜石・大槌地域産業育成センターの実験室をお借りし、5軸マシニングセンタ、3次元計測装置、3D-CAD/CAM、ワイヤ放電加工機、成形研削盤、等々の機器類を導入して地元企業への技術支援を開始しています。

最近では、当部門でのものづくり企業への支援活動がNHKのニュースで紹介されるなど、近隣地域で徐々にその知名度を上げています。

当部門では、地元企業からのご相談案件への対応の他に、次のような取組も行い、高度の加工技術の導入や定着を通して今後の新たな産業の創造や、ものづくり人材の育成を目指しています。

●ものづくり技術の講習会の実施

近隣市町でものづくりに従事する方々等を対象に、高度なもののづくりに必須とも言える 3次元計測装置や3D-CAD/CAMの講習を年度内に数回実施することを計画しています。

こうした講習を受講いただくことにより、企業の方々が気軽に一般



3D-CAD/CAM 講習用のPC



3次元計測器

開放された設備を利用して、より高度なものづくりに挑戦していただける環境を整えています。

●コバルト合金などの難作材にも対応できる高度加工技術の導入

釜石市で製造されているコバルト合金は、産学官が連携し10年越しで製品化に成功した世界に誇れる高強度の材料です。大変加工の難しい材料ですが、この材料の製造だけでなく、その加工もぜひ地元で行えるようにしたいと考えております。このことを通じて価格競争に負けない、難削材加工の独自技術を持った地元企業を育成したいと考えています。



釜石で製造されたコバルト合金



5軸マシニングセンタ

今後、様々なプロジェクトが展開される中で、現場窓口としてサポートさせていただきます。

連絡先 三陸復興推進機構ものづくり産業復興推進部門(担当:菊地、菅谷)
 〒026-0001 岩手県釜石市平田3-75-1
 釜石・大槌地域産業育成センター内
 TEL:0193-55-5582 FAX:0193-55-5583
 E-mail:kikuchiy@iwate-u.ac.jp

Information

第2回 岩手大学オープンキャンパス 2013

学部紹介、ミニ講義、研究室公開等を行います。皆様のご来場をお待ちしております。

日時:10月19日(土) 9:30~14:00
 場所:岩手大学

9:30	人文社会科学部	教育学部	工学部	農学部
10:00	学部&課程説明会	学部概要説明	学部概要及び入試説明、イベント紹介	研究室紹介 各研究室等自由見学
10:30				
11:00	研究室公開	各コース別イベント (模擬授業・説明会等)	ミニ講義	自由見学
11:30				
12:00	大学紹介DVD 上映	自由見学	学科説明会 (学科毎)	自由見学
12:30				
13:00	自由見学	各コース別イベント (模擬授業・説明会等)	進路相談会	自由見学
13:30				
14:00	自由見学			

お問い合わせ 岩手大学入試課 TEL:019-621-6064 http://www.iwate-u.ac.jp/

編集後記

9月18日から24日にかけて、全国のシニアの方を対象とした滞在型学習プログラム「岩手大学シニアカレッジ」が今年も開催され、全国から30名の方にご参加いただきました。

今年は「いわての食楽」をテーマに、岩手の豊かな自然が生み出した郷土食について、食材の持つ機能性などについて学びながら食する体験が提供されたほか、学外授業では、三陸鉄道株式会社の全面協力による臨時特別貸切列車にも乗車しました。

震災で大きな被害を受けた三陸ですが、そこで今も受け継がれる地域の伝統について知る機会としていただけたら幸いです。

※オープンキャンパスとあわせて、10月19日(土)・20日(日)に大学祭(不来方祭)を開催します。